

# 学校支援を積極的に進めよう

～リスタート2022・持続可能なPTA活動をめざして～

豊川市立金屋中学校PTA

## 1 学区および学校の概要

本校は、1977年（昭52）に東部中の一部と南部中の一部を校区として開校した、市内でいちばん新しい中学校である。市役所の東800Mに位置し、西には東三河免許センター、北には工場や自衛隊豊川駐屯地、南には金屋小学校と多くの施設に囲まれている。学校の東には桜並木で有名な佐奈川が流れ、年間7～8回行われる地元の河川整備活動には総勢300名を超える生徒がボランティアとして参加している。活動は草刈りだけでなく、コスモスと菜の花の種まきも行っており、春は桜と菜の花、秋はコスモスと彼岸花が咲き誇る四季折々の佐奈川が、金中生は大好きである。現在、令和8年度の創立50周年にむけて制服の見直しを進めており、生徒、保護者、教職員、小学校から意見を出し合い、金中生らしいブレザータイプの制服についてデザインを検討しているところである。

本校PTAは、役員8人と実行委員会（専門委員会17名と研修委員会12名）を中心に活動している。実行委員会は、整備、生活、広報、保健、研修の各委員会に分かれて、それぞれの年間計画をもとに活動している。



検討中の新制服

## 2 研究のねらい

本校はめざす学校像として、「学校と家庭、地域が協力して、生徒を温かく見守り育てる学校」を掲げている。めざす学校像を実現するために、PTAと学校が共に生徒を支える活動を展開していくことが必要である。一方、コロナ禍により活動の中止や変更が相次ぎ、「本当に必要な学校支援とは何か」という問いも生まれた。そこでこれまでのPTA活動を見直し、再スタートしていく必要があると考え、本テーマを設定した。

## 3 研究の方法

PTA活動を推進する実行委員会のメンバーが、PTA活動に取り組んだ上で成果を○、課題を▲として整理し、持続可能な活動としていくために話題となったことを次年度のPTAに提案する。

## 4 研究の実践

＜見直しの視点＞ 成果 ○ 課題 ▲ ➡ 提案

### (1) 年2回のリサイクル活動（整備委員会）

生徒、保護者、教職員が力をあわせて資源回収を行い、環境保全や地域貢献への意識を高め、学校の教育活動への支援を行っている。コロナ禍により昨年は1回のみだったが、今年は予定通り2回実施した。収益は、生徒の教育活動や部活動の必要物品購入等の補助などに活用されている。

【活用例】 学校用携帯電話 契約費用（部活動大会、校外学習等の連絡用）

○ 地域で活動することで、親子で地域環境への意識が高まり、地域での連携が深まる。

▲ 土日のボランティア活動のため、休日が最大4日間制限される。

➡ 2回のうち1回参加という調整が可能ではないか。  
地区ごとに検討を進めていく。

### (2) 学校と佐奈川の環境整備活動（整備委員会）

ア 4月のPTA総会で、会長が保護者に向けて、佐奈川の河川整備活動へ積極的な参加を呼びかけた。

イ 9月中旬開催の学校祭に向けて、土曜日に草取りや石拾いなど校内環境の整備を協力して行った。



佐奈川の河川整備活動

- 佐奈川の河川整備活動への参加者が昨年より大幅に増えた。地域とつながる奉仕活動となっている。
- 生徒、保護者、教職員と一緒に汗を流して学校環境を整備することで、夏草やごみが一扫された。
- ▲ 残暑厳しい時期の土曜日開催は、生徒の休養が十分に取れない。
  - ➡ 平日の午前中に数日間開催するなど、参加しやすい方法を整える。

### (3) あいさつ運動（毎月1回 朝7:50~8:10）（生活委員会）

月1回、生徒の登校時間に、PTA実行委員と教職員が通学路に立ち、あいさつ運動を行っている。

- 子どもの様子がわかるので参加してよかった。➡ 多くの保護者が参加できるよう募集してはどうか。

### (4) 学校保健委員会への保護者参加（保健委員会）

コロナ禍で集会在り制限されていたため、保護者代表として、PTA保健委員長、副委員長、会計が参加した。思春期の心の健康や、薬物乱用防止について講演を聞いた。

- 学校保健委員会に参加し、子どもの成長に大切なことや問題点など理解を深めることができた。
- ▲ 保護者代表として参加しても、内容を十分に発信できていない。➡ 広報や保健だよりと連携が必要。

### (5) PTAの視点で学校を紹介する「かなやんだより」（広報委員会）

本年度、PTA広報誌の名前を「アップリケ」から金屋中のゆるキャラ「かなやん」にちなんで「かなやんだより」に変更し、記事の字体や画面構成を明るく親しみやすい紙面に刷新した。

- PTA活動の内容や参加者の感想を、保護者へよりわかりやすく伝えることができた。
- ➡ 広報内容をメールやHPなどで紹介するなど、ペーパーレス化を検討したい。



かなやん

### (6) PTA研修会で学校に親しみを（研修委員会）

年に2回、保護者が気軽に参加できる研修会を開いた。今年はエクササイズの講座を開き好評だった。

- だれでも参加できる研修会を通して、保護者にPTA活動を親しんでもらうことができた。
- ▲ 平日の昼間の開催のため参加者が限られる。共働き時代に合う研修を考える必要がある。
- ➡ 研修会の回数を検討する。要望の多い菓子作りなどを計画してみる。

### (7) 金中祭・警備・受付（役員会・実行委員会）

今年度は、保護者の参観を2名まで受け入れたので、入場整理券の受付や会場内の警備を分担した。

- 受付業務や警備を分担することで、教員が学校祭の運営に集中できた。➡ 継続

### (8) 制服検討委員会への提言（実行委員会）

実行委員会で新制服の候補を見て、デザインや機能性、導入の方法などの説明を受け、保護者の立場から意見を述べた。

- 実物を見ることで保護者も検討過程がわかり、具体的なイメージを共有できた。
- ➡ 保護者の意見を聞く場として実行委員会を活用していきたい。



金中祭 PTA受付

## 5 成果と今後の課題

活動自粛がようやく緩和してきたことで、様々なPTA活動を行うことができた。活動を再開していくなかで、PTA活動を学校支援につなげていくためには、子どもたちの学習環境をよりよくしようという視点が重要であることを再確認した。各委員会から出た提案を次年度に引き継ぎ、子どもたちにとってより魅力ある金屋中学校になるように学校を支援していきたい。また、今後も活動後のふりかえりを大切にして、持続可能なPTA活動につなげていきたい。